


一般質問通告書

8

多可町議会議長 河崎 一 様

多可町議会議員 日原 茂樹 

平成26年 9月11日

受 午前 3時30分
領 午後

| 質問の項目及び要旨 | 答弁を求める者 |
|---|------------|
| <p>1. 行財政改革を問う</p> | <p>町長</p> |
| <p>国・地方を通じた厳しい行財政環境の中で、多可町においても、少子高齢化による人口減少や住民ニーズの高度化・多様化などにより、今後、新たな行政需要が増加すると予想され、地方自治体には独自の政策展開と自立がますます求められています。</p> <p>これまでも行財政改革の推進に取り組んでこられたと思われていますが、その進捗状況については町民の厳しい視線が向けられているところです。</p> <p>3町合併から10年が過ぎる2016年度から、地方交付税が年間2億円づつ減額され、5年後の2020年度には約10億円が減額されます。人口減少を考えればさらに減額となることが予想されます。</p> <p>自主財源に乏しい多可町では歳入に占める地方交付税の割合が40%以上となっており、これらの状況を改めて認識の上、早急に行財政改革を進めていくことが必要であると考えられます。これまでどおりの予算措置、事業の実施は不可能であると思われています。</p> <p>指定管理施設や公共施設・空き施設の整理・統合、補助金の見直し等による歳出の削減と、たとえわずかでも自主財源を確保し、持続的かつ自律的な財政運営が求められています。また人材育成と組織・機構の改編、職員のコスト意識やスピード感が求められます。</p> <p>戸田町長は昨年12月5日の所信表明の中で「民意を取り入れ、行財政改革を断行します」と述べておられますが、いまだその姿が見えません。</p> <p>具体的にどのような形で行財政改革を断行されるのか、お伺いします。</p> | |
| <p>2. 多可町図書館に電子書籍の導入を</p> | <p>教育長</p> |
| <p>近年、若者の活字離れが進む中、電子書籍の普及が注目されています。</p> <p>電子書籍とは既存の書籍をデジタル化しパソコンやタブレット、スマートフォンで書籍を読めるようにしたもので、今後、ニーズが飛躍的に高まると予想されています。</p> <p>電子書籍の特色は、ページに付箋を付けたり、文字を拡大・縮小したり、色付きのラインを引くことができます。また、音声読み上げ機能も付いているため、英会話のリスニングなども手軽にでき、語学勉強に役立つようです。</p> <p>外出困難な高齢者や障がい者の方、来館時間が無く多忙な方でも気軽に利用可能です。</p> <p>電子図書は、文字拡大・縮小機能や自動読み上げ機能、自動めくり機能、音声・動画再生機能等を搭載しているため、視覚障害の方でも読書を楽しめます。</p> <p>利用者はインターネットを介して24時間365日いつでもどこでも、貸し出し・返却</p> | |

ができるため、わざわざ図書館に出向く必要がありません。また、電子図書はスペースも必要なく、貸し出し・返却・催促に人手が不要となり、また破損、紛失や未返却等の損失がありません。そして、自宅にいながらサービスを受けられるなどのメリットがあります。

兵庫県下でも赤穂市図書館や、三田市図書館でサービスが行われています。

スマートフォンが爆発的に普及し、またタブレットの普及が進んでいます。子どもたちから高齢者まで、また障がい者の方にも読書意欲を高める取り組みとして、多可町図書館に電子書籍の導入を検討されてはいかがでしょうか。